

eセンター 人道援助活動の ための 訓練センター



応急処置手当(ファーストエイド)の講習



UNHCRはこれまで
国連の難民援助機関
として、各国政府や
NGOと協力し、国際
的な援助活動と難民
問題の解決に努めて
きました。しかし
UNHCRや関係諸国・
機関の努力にもかか
わらず、難民問題など
の人道緊急事態はア
ジア・太平洋を含む

世界各地で頻発し、その状況も複雑化して
います。また、人道援助活動が難しさを増
すにつれ、本格的な訓練・トレーニングの
場を求める声がNGOなどの関連機関な
どから高まっています。

このような状況を踏まえ、UNHCRは
2000年に日本政府の「人間の安全保障
基金」から支援を受け、人道援助活動の
ための訓練センター「e(=emergency)セ
ンター」を設立しました。UNHCRでは50
年間にわたって蓄積してきた緊急事態対
応と人材訓練に関するノウハウを、eセ
ンターを通じて広く人道援助活動に従事
する方々に伝えていきたいと考えています。
以来、様々なワークショップや通信教育
の機会、専門情報等を提供し、アジア各
国・地域*を中心に1,100人以上にワー
クショップを実施、900人近くが通信教育
を受講、延べ2,000人を輩出し、世界各
地の現場で活躍しています。

ワークショップの参加者は、実際の活動
現場がそうであるように、政府、NGO、
国際機関などの職員がほどよいバランス
になるようその構成にも考慮しています。
国籍も所属団体も多様で、個々人の豊
かな経験を参加者が共有できることも非
常に有益です。参加者間のネットワーク
構築・拡大もeセンターの活動の大事な
目的のひとつです。講義中はもちろん、食
事や自由時間にも参加者たちからの
フィードバックを熱心にすいあげ、ワー
クショップ中でも可能な限り、講義項目を
グループの要望にあわせ練り直したりす
ることで、eセンターのワークショップは回数
を経るごとに内容も磨かれてきています。

今後の活動は以下に焦点をあて、進め
ます。



緊急援助において重要な役割を果たすコーディネーション・ミーティングの模擬訓練の様子

緊急事態に対応する 多様なパートナー(政府、NGO、国連)に よる参加型のワークショップ

- 国際緊急対応の基礎(難民保護、ス
タッフの安全管理、ニーズアセスメント、
メディア対応、コーディネーション)
- 現場における安全管理(今日必要とさ
れる安全に関する個人のスキルと意識
を高める)
- 管理者のためのリスク管理(管理者とし
ての危険・リスク評価、不測事態対応
計画立案)

国、または地域固有の ニーズにあわせて オーダーメイドのワークショップ

- ・東南アジア諸国連合や南アジア地域
協力連合との協力によって、アジア地
域の災害対応・管理能力の知識・経験
を共有し、自国のみならず地域全体の
災害管理を強化するためのワークショ
ップの開催。
- ・アジア地域の各国において不測の事
態が起きた場合を想定し、緊急にかつ
迅速に対応するための計画立案を促す
ワークショップの開催。
- ・復興から開発への円滑な移行を行うた
めのワークショップの開催。

2007年以降重要課題への対応

援助の現場においてますます重要とされ
る政府やパートナー機関との交渉能力の
強化や、軍隊との民間機関の協力体制
のあり方、平和構築へ向けた取り組み等
多面的な協力。

*バングラデシュ、ブータン、ブルネイ、カンボジア、中国、
東ティモール、香港特別区、インド、インドネシア、日本、
韓国、ラオス、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、ネ
パール、フィリピン、シンガポール、スリランカ、タイ、ベ
トナム(eセンタートレーニング実績 アジア21の地域
と国)